



第80巻 第4号
年4回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田3-15-2
TEL 03-3387-5567
http://www.jiseikai.jp
振替口座 ベクニアの家
00170-6-15317

「これから」の支援

遠藤 充子

七月、マ・メゾン光星の玄関脇に二年越しの大きな白い花が咲いた。その花の名は「パチカンホワイト」。パチカンに住む教皇様の祭服の色と同じであることから名付けられたと思われる。種を採取しているので、機会があれば是非見て頂きたいと思う。さて、日本知的障害者福祉協会の令和二年度の実態調査によると入所期間が三十年以上の人達が1・5万人というデータがある。マ・メゾン光星も児童施設から在籍する方は五十年を優に超える。その当時は就学免除で、六、七歳からいる。そんな小さいうちから親元を離れての入所は親も子どもどんなにか寂しかっただろうと想像される。マ・メゾン光星はこの所、高齢化、重度化の為、高齢者の方への支援方法が非常に参考になっている。日本の認知症に対する方法は世界的にも進んでいると言われている。最近目にした支援方法をいくつか取り上げてみたい。

この度、虐待防止委員会から「にやりほっと」の提案があった。日常の中でヒヤリとしたりハットした出来事を「ヒヤリハット」と言う。ヒヤリとしたりハットしたりの際の情報を報告しあい、共有することで事故を未然に防ごうとするものである。ミスや事故を前提にしているの、確かにネガティブなイメージがする。

その反対語で思わずにやりとしたりほっとした言葉や振る舞いを「にやりほっと」と言う。発祥は東京都のある老人ホーム。スタッフが目を離したときに、車椅子から立ち上がりとうとした入居者がいた。本来ならば、見守りの強化に繋がる出来事。しかし、この時のケアマネージャーは歩こうと頑張っていると記録した。そして、この方のケアプランを「自分で立つこと、歩くこと」に変更した。小さな変化を軽視せず、同じ出来事をプラスに受け止めた。「にやりほっと」は周囲の温かいまなざしから生まれると共に、場を明るく和やかにする働きがある。出来ること、好きなことに着目する時、入所者の生活満足度や役割意識、身体機能向

上を生み出す。マ・メゾン光星でもこうした出来事を手始めにファミリー会議で発表し合った。山のように私物をため込んでいたAさん。「片付けよう」「捨てよう」とうるさいくらいに声掛けしていたがさっぱり片付かない。ある時、言い方を変えて声掛けしてみた。「Aさん本を買おう」。そうしたら、自ら古い本をいらないと持って来られたとの事。

また、Bさんは日頃、意地悪な面が多かったが、自分より、弱い方のお箸が落ちたのを知って新しいお箸を持ってきて渡してくれた。こんな優しい所があるのだと見直してしまったとの事。またCさんは、ある時繕い物を頼んだ職員が遅出の時間の帰る間に仕上げて持っていくと、「忙しいのになやってくれてありがとう」と言葉を発してくれたとの事。Cさんいつも他人の批判が多く嫌われていた。その職員はその言葉に感激したそう。入所者の笑顔に触れた時、職員にとってもやりがいや喜び、希望につながり、仕事に対するモチベーションが上がる。このことを考えると、私は「ヒヤリハット」と「にやりほっと」両方の観点から施設には必要であると思う。その他、認知症対応の中に出てくる「パーソン・セントード・ケア」なども挙げられる。日本語に訳せば「その人中心のケア」これは、その人の言うことを何でも聞いてあげるといふことではない。その人らしさを尊重し、

その人の立場に立ったケアを行うという考え方。また、「アウトカム・フォーカス・アプローチ」日本語では結果とか成果と訳される。現在の困り事を細かく分析し、現状で維持したい事と、変えてゆきたい事の二つに分けてそれぞれに対する対策を練ることを提案している。また、レクリエーションの中にある回想法なども興味深い。回想法とは昔の記憶を会話によって甦らせる活動である。対象者は自分に向き合って話を聞いてくれる人を待っている。若い頃自分や周りの事を思い出す時、懐かしさに浸り幸福感を感じる。私達は色々な考え方、ケアの仕方に触れ、利用者の方に相応しい方法を探し出していく事が求められている。マ・メゾン光星は五・六年前から「自閉症研究会」を開いている。最近入所される方には自閉傾向の方の割合が多い。支援する中で強い拘りやどう対応したらよいかなど悩むことは多い。そうしたケースを持ち寄り、記録に表わしてその傾向を掴んだり、有意義な学びの場となっている。自主的に発足した会なので継続してより良い支援に生かして欲しい。そして、「にやりほっと」のまなざしを忘れないで欲しい。「愛する」という言葉は相手を大切に思う事を意味する。そして「にやりほっと」のまなざしは相手を肯定する事に繋がっているから。

(マ・メゾン光星施設長)

ベトレヘムの園の新名所
「ベトレヘムの森」

シスター 田代 嘉子

ベトレヘム第一修道院から東星学園テニスコート脇の森林一帯は長い間、定期的な手入れをすることなく、さらに台風や気候変動の影響を受けて、雑木林の内部は倒木や枯木の形状のまま、ほぼ放置された状態にありました。このままでは自然破壊に繋がってしまうという危惧を抱いていました。

昨年の秋ごろ、このような状況について「有限会社・風のみどり塾」に相談、環境整備を目的とした調査や、生態系の保全や劣化した森林の回復に焦点を当てるための提案などを依頼いたしました。結果としてコンセプト(武蔵野の雑木林の風景を残す、雑木林で学ぶ・遊ぶ・育てる)をもとに、敷地内雑木林の伐採・剪定・遊歩道新設の提案を受け、また専門的な立場にある方の意見も伺い、本腰を入れた環境整備を図っていかうと決めました。

この森林一帯は創立者フロジャク神父様が一九三二年に約二万坪の土地を購入し、この新しい土地を「ベトレヘムの園」と名づけられた場所です。ベタニア/ベトレヘム日記には「ここに私は仕事の少しできる病人のために農園を作るつもりである」と記されており、創立者が夢を描いて開墾を始めた場所なのです。

農園ではなくとも、せめて園内で学んだり遊んだりしている子ども達や老人ホームの方々、療養中の患者さんの憩いの場・交わりの場となり、創立者の思いを彷彿とさせる場所になれば素晴らしいと思いました。

環境整備の大きな目標は、現教皇のフランシスコ教皇様が二〇二〇年五月二十四日から今年の五月二十四日までを『ラウダート・シ特別年』と定め、統合的エコロジーの観点から、ともに住む家である地球を守ることの大切さを自覚するようにと呼びかけられていることに、行動をもつて積極的に応えていくことです。



マップ看板

そして「私たちはみな、神の道具として、被造物を世話するために、おのおの自分自身の文化や経験、自発性や才能に応じた協力ができるのです」(ラウダート・シ14)ということばに励ましを受け、「ラウダート・シ」を生きることは継続していくことでもあり、同じ創立者に結ばれた慈生会・東星学園と協働して取り組むことができれば力強く、喜びも三倍に膨らむと感じました。

今回の工事は当初の計画とは違ったところもありましたが、伐採樹木の剪定、電線への干渉、枯れ木、幹割れ、弱りのためキノコが生えている等、過密になりすぎている場所や大きくなりすぎた樹木の整理が行われ、林床に光を入れて、様々な生物の生息地として回復し、数年後には豊かな生態系が作り上げられていくことに期待を持つことができました。



祝福式

また現在数十種残っている山野草も、苗木が育ち散策する人々の目を楽しませてくれるでしょう。

環境整備の完成した森林一帯は「ベトレヘムの森」と名づけられました。樹木の伐採や剪定、遊歩道の新設はもちろん業者ですが、工事期間中は東星学園が車両や重機置き場など作業現場での協力があがり、工事終了後の六月/八月にかけて看板その他ソフト面(憩いの場・交わりの場となるよう)で、慈生会本部からアイデアや作業時間の提供を受けました。まさに「ベトレヘムの森」はベタニアの家(フロジャク神父を神への愛に駆り立てたカリスマに属し、共有し、協働している家族、ベタニアファミリー)によって出来たのだと実感しています。森の中央には、絵文字で「ベトレヘムの森を利用するにあたって」、「ベトレヘムの森マップ」の看板、樹木には樹名札がつき、広く開けた場所を「みんなの広場」として、ベンチなどを置いて休憩できるスペースも設けました。



希望の小径

末筆ではございますが、私は去る六月二十四日、社会福祉法人慈生会の理事会においてシスター松本に代わって理事長としての任務をお受けしました。新たな役割を果たしていくために、皆様のお祈りとお支えを心からお願ひ申し上げます。
(ベタニア修道女会総長)

子どもたちが探検できるような木々の間を通る長い遊歩道(希望の小径)、老人ホームの方がお散歩できるような短い距離の遊歩道(風の小径)を設けました。百聞は一見にしかず、是非ベトレヘムの園の新名所「ベトレヘムの森」をお訪ねいただきたいと思います。

大変恐縮ではございますが、今後年間を通して草刈りや切り株から出てくる新枝やツル草の除去などの森の管理も必要ですので、資金面での援助もお願いできたら幸いです。

勤続三十年をむかえて

花田 妙子

三十年前、中野の徳田教会の門をくぐり、その奥にナザレットの家がありました。本当に「家」と感じる建物で、緊張しながらも優しい雰囲気を感じ「一家」の扉を開けたのを今でも鮮明に覚えています。入職当時は何もわからない私を温かく迎え入れてくれた職員の方たちには感謝しがなく、大変なことも多くありましたが、子供たちの笑顔に癒される日々でした。十一年ほどナザレットの家で勤務した後、ケアハウス慈しみの家に異動しました。

いきなり、乳幼児の施設から老人ホームに変わりましたが、戸惑うこともありましたが、それでも受け入れてくださったベタニアホームやケアハウスの職員の方々に感謝でした。利用者の方々の笑顔や声をかけてくださる優しさに触れながら、ここで定年をむかえるのかなあ、など思っていた時に中野区から清瀬地区にナザレットの家が移転した時に私自身もナザレットの家に異動となりました。

新築ですので中野区の時の「家」の面影はありませんでしたが働いている職員の優しさ、子供たちの笑顔に癒されることは変わらずにあります。本当に感謝の三十年だったと思います。

(ナザレットの家 栄養士主任)

三十年を振り返って

小林 一美

この度は永年勤続表彰を頂きまして、誠にありがとうございます。想えば三十年の歳月、公私ともに色々なことがございました。

先輩方が「出産後も働き続けることが出来る環境」を築き上げてくださり、また家族の理解と協力も得て、仕事と家庭を両立させることが出来ました。

勤続二十年目には長男が大病を患い、病院と職場を往復する毎日となりましたが、勤務内容を最大限に考慮していただき、ナザレットの家の子ども達の笑顔と職員の皆様のあたたかい言葉に励まされながら、希望を持って仕事を続けられました。

ナザレットの家が清瀬地区へ移転する際には、リーダーとしての業務に追われ担当児と関わる時間が充分にとれずに悩みましたが、養育者の皆様にフォローしていただきながら、準備を進める事が出来ました。

多くの方々に支えられての三十年、これからも常に感謝の心を忘れず、素晴らしい仲間と共に、子ども達とご家族に寄り添いながら、より良い養育をしていきたいと思えます。

(ナザレットの家 養育リーダー)

ミニ夏祭り

中本 次郎

子ども達の為に夏休みに何か楽しいイベントは出来ないかな?という事で企画したミニ夏祭り。

当日の8月3日は、暑すぎるくらい晴天に恵まれて、さらに今年も昨年よりもフランクフルトのブースを増やしての開催となりました。



コロナ感染対策は看護師、栄養士の指導・アドバイスの下、協議して2ホーム短時間入れ替え制、常に換気をするという条件の中、行うこととなりました。制限が多い中での開催となりましたが子ども達と職員の協力があった上での開催という事もあり、終了するまでは不安な面も多々ありました。

実際に始めてみると、パリッととするフランクフルトの食感に感動

した姿や、綿あめを大きな口で頬張る子、かき氷を冷たくて頭が痛いと言いつつも笑顔で食べる姿、自分でカラフルにかき氷の蜜をかける子、ヨーヨー釣りに夢中になりすぎて水に飛び込んだり子もいて、少しの時間ではありましたがギリギリまで賑やかに楽しんでいる姿も見られました。



このミニ夏祭りが出来た事は、職員や周りの方々・子ども達の協力があったことと感謝しています。

学園内の事ではありますが、「何か出来る事はありますか?」と声を掛けて下さった四十数年という長年共催で納涼祭をやって来て下さった自治会の方々にも励まされました。いつの日か、お神輿や盆踊り、夜店などで盛り上げられる自治会との共催の納涼祭の出来ることを願っています。

夏休みのひと時ではありましたが、子ども達の笑顔に元気をもらいながら、暑さやコロナ禍の現状をふっと忘れる時間となりました。

(ベトレム学園 個別対応職員副主任)

ベタニアの家

十月行事予定

- 1日 慈生会 新任職員
オリエンテーション
- 2日 東星中高 学校説明会
- 4日☆「すべてのいのちを守るための月間」終了
- 16日 ベタニア修道女会 金祝
- 18日☆世界宣教の日

十一月行事予定

- 1日☆諸聖人
- 1日 東星幼稚園 入園面接
- 1〜2日 東星小学校 第1回入学試験
- 2日☆死者の日
- 3日 《文化の日》
- 14日☆貧しい人のための世界祈願日
- 19日☆ミャンマー・デー(東京教区)
- 20日 東星小学校 第2回入学試験
- 21日☆王であるキリスト
- 21日〜28日☆聖書週間
- 23日 《勤労感謝の日》
- 24日 慈生会 理事会・評議員会
- 28日☆待降節第一主日
- 28日 東星中高 学校説明会

十二月行事予定

- 3日☆日本宣教の保護者
聖フランシスコ・ザビエル
司祭祝日
- 4日 東星小学校 第3回入学試験
- 5日☆待降節第二主日



- 5日☆宣教地召命促進の日
- 8日☆無原罪の聖マリア
- 8日☆「聖ヨセフ特別年」終了
- 11日 徳田保育園 クリスマス聖劇
- 12日☆待降節第三主日
- 12日 創立者フロジャク神父命日
- 15日 慈生会 理事懇談会
- 17日 東星学園 幼稚園 クリスマス会
- 18日 東星学園 小学校 クリスマス会
- 18日 ベタニアホーム ZEROキッズ・クリスマスコンサート
- 19日☆待降節第四主日
- 20日 ベトレヘムの園病院 クリスマス会
- 22日 マ・メゾン光星 降誕ミサ・聖劇
- 23日 東星学園 中高部 クリスマス会
- 24日☆主の降誕夜中ミサ
- 24日 聖家族ホーム クリスマスお祝い
- 24日 聖ヨゼフホーム クリスマスお祝い
- 25日☆主の降誕
- 26日☆聖家族祝日

お知らせ
今月号から「瑠璃草」をカラー印刷にすることに致しました。

お知らせ
令和二年より、「ベタニアの家」へ頂いたご寄付は、寄付金控除の対象となります。

令和三年度慈生会各地区のバザー及びチャリティーコンサート中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に鑑み、参加者、関係者の安全を第一に考慮した結果予定しておりました慈生会各地区のバザー及びチャリティーコンサートを中止させていただきますことといたしました。楽しみにして下さっていた皆様には大変残念ではございますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い致します。

『那須地区光星祭』
『中野地区ふれあいバザー』
『清瀬地区ふれあいバザー』
『清瀬地区どんぐり祭』
『清瀬地区健康まつり』
『ベタニアの家 チャリティーコンサート』

編集後記



今年の敬老の日もご利用者と職員のみで、各階ごとに「敬老の集い」を行います。今年は、百歳以上の方が十名、最高齢の方が百六歳です。中野区からのお祝い品とご利用者全員に中野第五中学校のボランティアの生徒さんが作成してくれた「お祝いカード」を差し上げます。そして、みんなで記念撮影。各階のエレベーターホールに花を飾り、廊下や食堂も敬老祝賀の飾りつけで盛り上げます(ベタニアホームHPで紹介致します) (中村 英男)

緊急事態宣言の中での夏休み。子どもたちにとって思い出作りとなる夏休みは、外出を控える、密を避けるといった制限がある中で何が出来るのか不安であった。しかし職員がそのような中でも楽しめる事を考え、ホーム内での緑日。敷地内での宝探しや水遊び、ホールでの映画観賞会、近隣への少人数での外出等、子どもたちにとっては、特別な思い出作りが出来たのではないかと思う。(関 広宣)

昨年の秋の編集後記では、コロナ禍でのステイホームの過ごし方を書かせていただきました。あれから1年が過ぎ、コロナと共に過ごす日々が続き2年目に入りました。この期間、家族で過ごす時間がたっぷりと考えています。子ども達の宿題を一緒に考えたり、料理やおやつを皆で作ったり、ゲーム大会をしたり...。こうしただけを将来振り返ると、かけがえない時間になっているのではないかと思います。さて、今週末は新しく始めた趣味を楽しもうかな。(杉山 智和)

南北にのびる日本列島の天気予報が毎日気になります。豪雨災害や猛暑日が続く原因の根は、地球の循環システムを壊し各国が一致して改善に取り組めないこと。私の小さなエコな生活も○印の日ばかりでなく申し訳ないです。十一月の英国でのCOP26で気候変動対策が加速化されることを願います。最近、雨上がりに気持ちを和ませられる虹をよく見ます。神は人間がいかにあるうと地球を大破することは無い(創世記9章)と、誰もが見える虹を約束のしるしとされました。神の祝福に希望をおきます。(Sr中野 利恵)